

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月5日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600050		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム ほうばい		
所在地	高知県幡多郡三原村宮ノ川字ヒジリ山1420-5		
自己評価作成日	平成23年8月4日	評価結果 市町村受理日	平成23年10月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者に、住み慣れた地域で、昔からの「ほうばい(朋輩)」とともに「和み」「ゆとり」がある生活を送ってもらうよう支援するとともに、「開かれた事業所、気楽に立ち寄ってもらう事業所」を運営目標として、地域の方の協力を得ながら、地域に根ざしたホームの運営に取り組んでおり、近隣の方が農作業を手伝ってくれたり、顔見知りの入居者に声をかけてくれるなど、日常的に交流している。調理業務を地元の方に委託し、地産地消の視点を大切に食事を提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992600050&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992600050&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年9月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は中山間地域の静閑な場所に立地し、利用者も地域住民と馴染みの関係があり、散歩時や行事への参加などを通して気軽に挨拶を交わしたりしている。車で15分程度の隣接市に法人本部や系列の特別養護老人ホームやグループホーム等があり、職員は、身体拘束委員会などのいずれかの勉強会に属し、事業所での伝達講習を通して職員との共有や介護スキルの向上を図っている。また、村外にいる家族もいるが、定期的に面会に訪れてもらうようにし、事業所の便りに担当職員の手紙を添えて利用者の近況報告を行うとともに、家族会での意見も踏まえ、緊急連絡マニュアルを共有するとともに、家族から買物支援の協力を得るなど、共に支え合っていく関係を築いている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: ほうばい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中でながく親しんだ人達と、和やかに、ゆったりと過ごせるよう、具体的なケアについて話し合いながら、理念沿った支援に取り組んでいる。	法人の理念を基本に、開設時の職員全員で話し合い、事業所独自の地域密着型サービスの理念を作成している。利用者同士や地域住民はお互い旧知の関係があり、個人情報取り扱いに留意しながら、利用者が地域で暮らし続けることができるよう支援している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会に加入し、区の一員としてクリーンデー活動に参加したり、夏祭りや神祭、運動会等の見学に出かけ、馴染みの方と交流している。また、散歩などを通して地域の人たちと触れ合う機会を多く持つようにしている。	村単位や地区単位の行事に参加し、保育園児や小中学生との触れ合いや、馴染みの地域住民と交流している。また、散歩時には住民が気軽に声をかけてくれたり、野菜や果物の差し入れ、野菜の植え付けや草刈り作業などの協力も得ている。	地域の行事に積極的に参加するなど、関係づくりに努めているが、さらに事業所から地域向けに情報発信をしていく取り組みを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が受け入れている実習生の実習場所として人材育成に協力している。散歩や行事の参加時の交流や、入居希望者のいる家族との面談や見学の際に、認知症について理解してもらうよう支援している。なお、啓発活動等には取り組んでいない。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。事業所の運営状況を知ってもらうとともに、より良いサービスの確保に向けて、助言、指導を得たり、事業所の運営への協力を得ている。	家族や地域の代表、行政職員や駐在警察官などの委員の参加を得て、利用者の状況や行事報告を行い、双方向的に話し合っている。委員の意見等は職員間で共有し、運営に活かしている。また、評価結果やその課題への対応、家族会の報告もしている。	会議の運営に当たっては定例報告のほか、その時期に応じた課題事項や経過報告なども計画的に議題にあげ、委員の意見や提案を受けて、今後のさらなるサービス向上につなげていく工夫を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、村の担当者が訪問の機会があり、運営状況や利用者の状況について話し合っている。また、村の介護保険サービスに関する見直しや今後のあり方の勉強会に参加している。	担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議を通して事業所の実態を把握してもらうとともに、日頃から訪問するなどして、報告や相談などしている。また、村の福祉や介護サービスのあり方に関する話し合いに、管理者が出席するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体の身体拘束委員会を通して、勉強会やケース検討会を行うなど、各現場で身体拘束をしないケアを徹底している。夜間(21時～6時)のみ施錠している。	身体拘束をしないケアの実践について、法人全体で取り組んでおり、職員代表が委員会に参加するとともに、伝達講習を行い、職員の理解を深めケアにつなげている。言葉による行動抑制を予防するため、利用者との対応時に状況に応じて職員が交替するなどして、職員にストレスがたまらないよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束委員会で虐待防止について話し合い、各現場では日常のケアで利用者の言動に対する受け答えはどうかなど、具体的に例を出して職員同士で検討し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この制度を必要とする利用者はいないが、勉強会で取り上げ理解を深めるように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の現状、利用料金、ターミナルケアを含めた医療連携など、不安や疑問などを出してもらいやすい雰囲気をつくり、納得が得られるよう、十分時間を取り説明している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会の機会を捉えて気軽に話し合える雰囲気づくりを心がけている。出された意見や要望は職員間で共有し、対応できるようにしている。病状等の変化みられた時の連絡方法についての意見あり、緊急連絡マニュアルを共有し、それに沿って対応している。	家族会を年1回開催し、殆どの家族が参加している。段階を踏んで話し合いを中心にしたものになっており、利用者の状態変化などの連絡の徹底について申し入れがあり、マニュアルを作成して家族や職員間で共有している。また、面会や電話、毎月の担当職員の手紙などで意思疎通を図っている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、申し送りなどを利用して意見を聞くようにしており、職員から必ず1回は発言するよう促し、提案等はできることから運営に取り入れている。	毎月の職員会や日々のショートミーティングなどの機会に職員の意見や提案を聞いている。勤務割り時間や業務内容の見直し、テラスの柵の改造など、話し合いながら運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や賃金体制の見直しなどを行い、働きやすい職場環境の整備の努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほか、スキルアップやキャリアアップ等、個々にあった研修参加や資格取得に取り組めるよう、勤務の調整や公務扱いにするなどのサポートをしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や、隣接市のグループホームの勉強会に参加し、サービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に、本人と十分話し合う時間を設け、心身の状態や生活状況を十分把握し、本人の安心感の確保と職員との信頼関係が築いている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、今までの苦勞など、ゆっくりと傾聴するとともに、本人、家族にとってより良いケアについて話し合いながら信頼関係を築いている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、当事業所だけでなく、近隣の施設や訪問介護、デイサービス等の他のサービス内容も説明し、本人や家族の状況に応じた、より良いサービスを選択できるように検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの特性、不安、喜びなどをできる限り理解し、分かち合い、また、家事や農作業を利用者に教えてもらうなど、共に暮らす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日々の様子を、面会時や便り等を通じて伝え、意見等も聞きながら家族の思いに寄り添い、共に支え合っていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人と、電話や手紙で交流したり、気楽に訪問してもらえる雰囲気づくりをしている。また、日常的に利用者にとって懐かしい神社周辺を散歩したりしている。</p>	<p>知人や友人が面会に来てくれたり、散歩などの外出時に馴染みの住民と声をかけ合っている。近くの神社はかつて祭りなどで交流していた場所で、思い出の場所となっている。また、家族の協力で行きつけの美容院に行ったり、墓参りや外泊などもしている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食堂やホールの座る場所を固定せず、好きなように座り、利用者同士が気軽に話し合えるようにしている。また、孤立したり、もめごとがおこらないように職員が調整役となり支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も家族の訪問を受けたり、入院先に見舞いに行き、状態を把握するなど、関係を継続している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、本人が希望を表出しやすい言葉がけや対応を心がけている。思いをうまく表出できない方については、表情や言動を観察するなどして把握している。</p>	<p>日常会話の中で、利用者の思いや希望を聞き取るとともに、困難な場合は、生活歴等をもとに働きかけ、表情や素振りなどから思いを汲み取るようにしている。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族から、利用開始時や面会時に、生活歴やこれまでの経過等について話を聞き、把握している。また、暮らしの中で新しい情報の収集もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、小さな変化も見逃さないように努め、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時を利用してケア会議を行っている。また、日々の関わりの中でも本人、家族の意見を聞くとともに、毎月、職員全員でモニタリングとカンファレンスを行い、利用者にとってより良い介護計画を作成している。	利用者、家族からのプランに対する意見等は少ないが、利用者の状況の共有や面会などを通して意向を汲み取るようにしている。毎月モニタリングを行うとともに定期的にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。担当者会にはできるだけ家族にも参加してもらおうよう工夫している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、食事や水分の摂取量、排泄や身体状況のほか、日々の暮らしの様子や言動を記録し、職員は勤務開始前に確認し、ケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況やニーズに応じて、通院や送迎等の支援を行っている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、地域包括支援センターなどと連携しながら、利用者が安全で豊かな暮らしができるよう支援している。地域の祭りへの参加時には、駐車場の確保や会場まで車の乗り入れ許可などの配慮を得ている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、内科、歯科の協力医による往診を受けている。緊急時にも往診してもらう体制がある。利用者、家族から他科や他の病院の受診希望がある時は、適切に医療が受けられるよう支援している。	入居時に、家族の判断で協力病院をかかりつけ医としており、毎月往診を受けている。専門医への受診は利用者、家族の希望に沿っている。受診結果は、必要に応じて家族に連絡するとともに、職員は、服薬情報も含めて業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、月2回の訪問を受けている。緊急時の対応もあり、日々の健康管理や医療面の相談をしたり、指導を受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提出したり、主治医から情報提供も受けている。退院時には、事業所の状況、治療方針等について主治医と十分話し合い、本人、家族の気持ちが反映されるよう支援している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にターミナルケアについて、事業所ができることを十分説明し、終末期の対応について希望を聞いている。また、終末期を迎えた場合は、再度ターミナルケアについて話し合い、本人、家族の希望に沿えるよう支援している。	法人のターミナルケアへの対応をもとに、入居時に重度化や看取りに関する説明を行い、同意を得ている。これまで、医療機関で終末期を迎えたり、事業所で看取りを行った事例があり、家族の意向に沿って、医療関係者とも連携し、本人、家族が納得して終末期を迎えられるよう支援する体制が整っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、勉強会を通じて実践できるようにしている。AEDの使用訓練も予定している。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施している。地域の方の参加は十分といえないので、これからも協力を得られるよう努めていく。非常用の飲料水や備品については、地域住民の受け入れも想定して準備している。	年に2回、消防署の指導を得て事業所独自の防災訓練を実施している。地域に協力を求めているが参加は少ない状況にある。事業所は村から災害時の避難場所として相談を受け、災害時の備蓄は、事業所用として3日分を目安として準備するほか、地域住民対応として、水分やブルーシートなども用意している。	村から地域の避難場所として指定されるなどの環境も整っており、今後も運営推進会議で地域ぐるみの災害対策について話し合い、地域住民の協力を得た防災訓練の実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉がけなど年長者として敬意をはらい、誇りやプライバシーを損ねることのないケアができるよう、管理者、職員同士で互いに注意し合っている。	排泄や入浴などの介護の場面で、利用者の誇りやプライバシーを損なわない声かけや対応に留意している。特に、地域住民と馴染みの関係もあり、個人情報扱いにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活歴や経験を念頭に、日々の会話や表情から思いを把握し、利用者が自分の意思を表出できるよう働きかけ、自己決定ができるよう支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事時間など一日の流れの目安は決めているが、その日に何をしたいか、利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿った暮らしを支援している。行事を行う場合は、利用者の希望を取り入れて事前に話し合うようにしている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に利用者の好みの服を準備してもらったり、本人の好みの服を持ってきてもらい、更衣時には本人に選んでもらっている。散髪やカラーリングなども本人、家族の希望を聞き支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、地域在住の調理師資格を持つ方に委託している。地産地消や季節感に配慮してもらい、利用者の意見も取り入れた献立となっている。2～3カ月に1回は法人の栄養士に検食してもらい、指導を受けている。	食材調達から調理、食器洗いまで外部に委託しているが、行事食の場合や月に1回の屋食は事業所でも対応しており、利用者は下準備や片づけなど、できることを職員と一緒にしている。また、午前、午後のおやつのお湯呑コップの準備などもしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や1日の水分量を把握するとともに、毎月体重測定を行っている。また、嗜好品を把握するとともに、箸やスプーン、普通食や全粥、きざみ等、好みや状態に合わせた支援をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしており、十分にできない利用者については介助している。また、協力歯科医から定期的に検診、指導を受けている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、自尊心を傷つけないよう配慮しながら、できるだけトイレで排泄するよう支援している。リハビリパンツやパット類は、利用者の排泄状態にあわせて利用している。	利用者の殆どは排泄は自分のできる状況にあるが、個々に応じて声かけしたり、紙パンツを使用している。布パンツを使用している利用者が時には紙パンツの使用を申し出る場合もあり、本人の意向を大切にしながら見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をもとに、水分補給や運動、腹部マッサージを行い、利用者の状態に合わせて自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後2時から毎日入浴できるよう準備し、入浴したい時間に利用してもらっている。夏場は夜間も希望があればシャワー浴を行っている。仲の良い利用者同士で入ったり、個浴や介助のいる方等、個々の状態に応じて支援している。	利用者の希望に沿って支援しており、14時から17時の時間帯を利用し、概ね2日に1回は入浴している。拒否のある場合は、家族に相談しながら週に1～2回は入浴するように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、できるだけ散歩や体操、家事などの活動を通じて生活リズムを整え、ゆっくり休息できるよう支援している。また、眠剤を服用する場合は、日中の活動に影響を与えないよう十分観察し、主治医と話し合いながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はケース毎に整理し、個々の薬の内容については一覧表を作成している。薬の変更の際は連絡表で情報を共有している。服用時は一人ひとりに手渡し、服用状況も確認している。また、処方毎に薬剤師より服薬指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	保育所、小中学校の運動会や村の行事などに、利用者と一緒に話し合いながら参加している。また、家事や畑の作業に経験を活かしてもらったり、役割を發揮したり、日々楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、自宅訪問など、利用者のそれぞれの希望に沿って外出できるよう支援している。また、家族の協力を得て外泊、墓参りなどに出かけている。	日常的に事業所周辺の散歩に行ったり、利用者の希望に沿って外気浴したりしている。月に1～2回はドライブに行ったり、季節の花見や行楽には法人から車を借りて、利用者全員で出かけている。また、家族の協力も得て買物などに出かけている。	買物支援は、家族の協力を得ている状況にあるが、ドライブの際に希望に応じて買物をするなど、事業所としての支援を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて本人が少額の金銭を管理している。買物時には、利用者本人が支払えるよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも好きな時に手紙が書けるよう支援している。また、電話も気軽にかけられるよう、通話先の電話番号を解りやすく、個々に整理している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を聞きながらテーブルやソファの位置を決め、気分転換に模様替えを行うなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間の天井は高く、開放感がある。利用者はソファで談話したり、テレビの歌番組を楽しんでいる。また、食卓で新聞をみたり、職員と一緒に洗濯物の整理をするなど、ゆとりくつろげる場となっている。壁面等の飾り付けは殆どないが、落ち着きがあり、書棚を置き、歌手のポスターやカレンダーを貼っている談話コーナーは安らぎと家庭的な雰囲気が際立っている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間は一体的な造りであるが、利用者それぞれが好きな場所を選び、過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時には、本人らしい居室になるよう、使い慣れた品物を持ってきてもらうよう説明し、入居後も生活状況をみながら、安らぎが得られる居室になるよう家族の協力を得ている。	広い居室には、トイレや洗面台、納戸のほかベッドが備え付けで整理整頓が行き届いている。整理ダンスや衣装ケース、机や椅子のほか、家族写真やぬいぐるみ、花の小鉢や身の回り品などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人の事故対策委員会を通じて、事業所内の危険場所の有無、車椅子などの物品の点検を行うとともに、利用者それぞれの身体状況に合わせて手すりを設置するなど、環境整備を行い、安全に自立した毎日が過ごせるようにしている。		

ユニット名:

ほうばい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				